

番号	質問(1) \ 日本人通算番号 (→)	19 2012年	20 2012年	21 2012年	22 2012年	23 2012年	24 2012年
1	参加年次						
2	6週間という期間をどう思いますか。	適当。(もっと長くともOK)	適切だと思う。他のフェローと交流を深めること、広い原子力分野を講義でカバーすることの点において6週間は適切だと思う。ただしこれ以上の期間延長はフェローの講義を受講するためのモチベーション維持が難しいと考えるため効果が薄いと思う。	初めの一週間は非常に長く感じたが、それ以降はあっという間だった。特に最後の二週間は非常に短く感じた。	概ね適切。当初は少々長すぎると感じたが、過ぎてみると意外と短い。	ちょうど良かったが、日本人は慣れるまでの期間が他国のフェローより長くなってしまったため、もう1、2週間あれば、さらに貢献できたように思う。	1ヶ月程度で十分人的ネットワークは構築できる。
3	研修での講義内容が今後の業務に役立つという感じはありますか。	講義を通じて、原子力を取り巻く会社や組織であったり、かかえている問題点について世界的な視野で知ることができた。現時点でどう役に立つかは未知数であるが、少なくとも素養を高めることができたと思う。	業務作業で得られる知識分野は限定されているので、今回の多岐にわたる原子力分野の講義内容は業務視野を広げる上で大変役立つと思う。	直接関わるかはわからないが、広がった視野と一層高まった積極性でいろんなチャンスにトライし、ひいてはどのような業務であっても役立つと思う。	講義内容そのものが業務に繋がるかは未知数。それよりも、議論の進め方、プレゼンの仕方、感性の違い等を日常業務に活かす可能性の方が高い。	そう思う。原子力産業全体の講義を受講したことで、自分の業務が世界における業界のどの位置にあるかをつかむことができた。今後は業務においても、幅広い視点で取り組んでいけるように感じる。	横の連携の重要性や日本の安全文化の強化を実感した。原子力安全の強化を推進する上での新たな取り組みや組織の構築の観点で今後の業務に役立つと感じている。
4	ワーキンググループ活動の方式(進め方など)、内容で今後の業務に役立つ感じはありますか。あるとすれば、例えばどんな？	文化・バックグラウンドが異なる様々な考え方を持つ人達が、ディスカッション等を経て結論を目指すというプロセスは役立つと思う。	業務に役立つ場面は多くあると思う。例えば業務において効率的に大きな成果を出すためには多くのコミュニケーションが必要であること、成果の大きいディスカッションをするためには議長のアナウンスが重要であることをWNUの講義で学んだが、これらをWNUのワーキンググループで体験することができ、勉強になった。	他国の人々のワーキンググループの進め方、意見のまとめ方は非常に参考になった。ケーススタディなどで短い時間に意見をまとめて発表する必要が何度かあったが、この様な場面には日常業務でも幾度となく遭遇するだろう。	例えば、議論の進行にあたり、役割分担・時間配分・最終目標などを一番最初に決めて、全員で共有する方法は非常に有益と感じた。今後の会議進行に活かしたい。	大いに役立つと思う。英語という慣れない言語で意見を言い、相手に理解させるよう必死で努めた経験は、他部門や他社との調整時に役立っていることができる。	国際的な場での交渉術を身に付ける必要があると感じた。(研修中に見出すことは出来なかったが、改善点を知ることが出来た。)
5	Forum Issueの検討プロセス(やり方、時間、他)は満足でしたか。	満足。良いディスカッションができたと思う。	満足です。ワーキンググループ時と同様に議長、書記を決めたので活発な議論ができた。またForum Issueのテーマは自由選択であるのでフェローはそのテーマに興味を持っており、ワーキンググループ時の固定テーマよりも議論が活発であった。時間は決して十分ではなかったと思うが、その分少ない時間で成果を出すというタイムマネージメントを行うことができ大変有意義だった。	満足したが、協力度は人によって様々だった。自分一人で全てをやった方が内容も充実して良い発表ができるのではないかと感じたこともあったが、最終的にはみんなの協力で良い最終発表ができ、考え方が変わったかもしれない。	私はメンバーに恵まれたため、非常に良い準備・発表ができた満足している。ただ、私個人としてはもう少し時間があれば理解が深まり良かった。	満足だった。時間はしっかり確保されており、フェローの自主性とメンターのアドバイスのバランスもよく、非常に充実したものだ。	検討プロセスに関しては満足している。
6	講義後のPlenaryはやり方、時間で改善したい点はありませんか。	特になし。全員が色々な役割を担うため良いやり方だと思う。	今回のやり方でよいと思う。講義内容についてのディスカッションを促すためには、講師への質問をグループで話し合う今回の方法が適していると思う。	特になし。質問者によっては早すぎて聞き取れなかったり、英語が聞き取れても結局何が質問なのか理解できないこともあった。また、発表者の回答が的外れなものもあった。そのため、発表者には毎回質問をきちんと繰り返してもらえば、より中身の濃い質疑応答になると思う。しかし、全体的には満足している。	講義直後の質疑応答の時間が十分でなく、さらに午後のPlenaryでも改めて質問時間が設けられるため、どちらかに一方に統一しても良いと感じた。個人的にはグループワークを通じてFellow同士の交流がより図れるため、Plenaryのみとする方がよい。	特になし。時間が短いこともあったが、効率を上げて対応できたように思う。	特になし。
7	研修参加前の期待に反した点はどんなものがありましたか。	特になし。	英語によるディスカッションにおいて自分の意見を完全に伝えきれなかったこと。講義が多く、満足に復習をすることができなかったこと。	特になし。	新たな知識の獲得はあまりなかった。講義の内容は深さも広く、目的は新たな知識の獲得よりも既知情報の確認に主眼が置かれていると感じた。	特になし。	リーダーとして不向きなフェローが多かったように思う。
8	研修全体が、WNUの目指す「指導者育成」になっていると思う点は？	リーダーシップに関して多角的な視点から講演があること。そして、それを実際にワーキンググループその他の活動で活かす機会が与えられているため、指導者育成になっていると思う。	リーダーシップの講義によりリーダー像が具体化された。またワーキンググループやForum Issueグループの議長を通して簡単にリーダーシップを実践することができた。ただ、リーダーシップの講義はこれまでのリーダーの経験によるであり、リーダーに必要な技術については多少抽象的であったと思う。具体的なリーダー技術に関する講義があってもよいと思う。	様々なリーダーから多様な沢山のリーダーシップに関する講義があったが、この様な講義は日本では受けたことがなかったため新鮮で視野が広がった。しかし、アジア・日本にも沢山のリーダーがいるはずなのにInvited Leader Presentationでは欧米人ばかりが発表したため、最低一人は日本人からがなされるべきだと強く感じた。	指導者育成に合致する点は、多様な意見(文化・習慣を含む)を受け止め、まとめ上げる方法を実地で習得する機会が与えられたことである。今後の社内会議等で活かしたい。一方、なっていない点は同業者の視点から見た議論に終始しており、第三者からの視線が十分に入っていない点(点が挙げられる。私が思う今後の指導者に求められるものは「外部関係者とのコミュニケーション」であり、その部分が充実していけばより良い研修になると感じた。	なっている点:リーダーシップの講義や、様々な機関・企業のリーダー的役割にある方からの講義があること。なっていない点:特になし	ワーキンググループ等の実践が多い点が「指導者育成」になっていると思う。フェローの性格やバックグラウンドを知る時間が少ない点。
9	同上、なっていない点は？						
10	研修内容で、あれが有れば良い、と思う点がありましたか。	日本人によるリーダーシップの講演。	研修内容は十分濃密であり、特に新たに希望する内容は無い。	もう少し踏み込んだフォローアップがあるとよいと思った。講義後に各班で質問を用意してスポークスマンがそのリストの中から質問をしたが、聞くことができなかった質問が多々あった。これらを控えておいて発表者の回答が得られるような仕組みがあると良いと思う。	第三者(例、マスコミや自治体)による講義。航空業界の講義は良かったため、これをより拡大させると良い。また、模擬記者会見の演習が一度あったが、マスコミの視点などを実際に取り入れて実施できればなお良い。	人材育成に関する内容が薄かったように思ったが、リーダーシップの観点必須の事項であることから、もう少し厚くしていただいても良かったと思う。	「リーダーとは？」についてディスカッションをするコマとフェロー自身を知る時間。
11	研修全体で、あれはあまり意味がないと思うものがありましたか。	テクニカルツアーの一部が、ごく一般的な見学・説明のみであったこと(おおむねは満足している)	特になし。	特に無い。全てが自分にとってはありがたかった。	Technical Tourは少々期待外れであった。一週間もあったため、もう少し施設の内部まで入れるものと思っていた。また原子力発電所内に入らなかったのは残念であった。	特になし。	グループが3回変更する点と多くの会社のリーダーからのリーダーシップに関するプレゼンテーション。
12	周囲の同僚に参加を勧めたいと思いますか。	思う。個人・会社の双方にとって大いにプラスになる。	思います。理由は以下。 1.世界中の同年代の原子力関係者と深い交友関係を築くことができる。 2.日本からの代表として研修に臨むことにより、日本の原子力の現状と将来について考えることができる。 3.業務のみでは狭くながちな知識を原子力全体へと広げることができる。	勧めたいと思うが、英語を不自由なく使え、積極性を持った人物が望まれる。今後そういう人材を増やしていくための取り組みもWNUへの人材派遣と並行して進めていくと良いと思う。	大いに勧めたい。このような経験ができる研修はどこを探しても他にないと感じている。個人的には生涯に亘る財産となり得る研修であった。	ぜひ勧めたい。	リーダーとして活躍が期待される同僚に勧めたいと思う。
13	「研修で大きな益を得るには、原子力の知識、英語力、指導性のうち二つは欲しい、一つでは苦しい」と考えがありますか(賛成、反対、別意見、何れも歓迎)。	賛成。 研修において「原子力の知識」「英語力」「指導性」の三つはどれも大切な要素だと思う。個人的には英語力がもう少しほしい。	一つだけでは苦しいという考えには賛成。 ・英語力はあればあるほど得られるものは大きくなると思います。 ・原子力の知識は、事前に配られる教本や前年度の講義スライドを用いて予習することでカバーできると考える。 ・指導性よりもグループディスカッションに積極的に参加したり盛り立てる協調性が重要だと思う。指導性でもフマン的なものでは周りはその人に頼ってしまい、有意義なディスカッションが生まれにくいと思う。	英語力は必要だが、やはり社交性がある方がよいと思う。英語ができないと6週間の本プログラムはとて厳しいと思うが、それよりも英語でコミュニケーションを積極的に取る意思があるかどうかの方が重要だと思う。指導性というのはよくわからないが、将来リーダーになる可能性があり、かつ積極的な人が行くことと大きな益を得ることができると思う。	私個人の意見としては英語力以外はそこまで重要でない(心配ない)と感じた。原子力の知識は業界人(それも現在の日本の関係者)であれば、自分の専門でなくても問題なく講義についていけるはずである。また、指導性についてはこの研修に参加される方にはそもそも備わっているものと信じている。大きな益を得るには、そのような個人の資質よりも、それを発揮できるだけの英語力の方に大きく依存すると感じた。	賛成。ただし、原子力の知識はマストだと思う。研修で得た知識だけで自分の考えをまとめ、表現するのは難しい。幅を広げて表現する際に、コアとなる知識(および経験)が必要だと思う。	①指導性②英語力③2つ以上特化した原子力の知識があれば大きな益を得られる。
14	研修終了後、他のフェローとの往来、連絡を取りますか？	今後とも、今回の研修で知り合った縁を大切にしていきたいと思う。	主にFacebookを用いて連絡をとっている。仕事に関する質問など込み入った話をする場合にはメールを利用している。	そのつもりである。	こちらからは積極的に取るつもり。	確実に取ります。	Facebookで連絡を取り合っている。
15	その他、研修で感じた点があれば何でもお書きください。	オックスフォード(ナスウェーデン1週間)で過ごしたこの6週間は、とても刺激的で貴重な経験でした。上記13でいう大きな益とまでいえるかどうかわかりませんが、とても有意義な研修であり、大いに自信になりました。このような機会に参加させていただいたことに感謝いたします。	今回の6週間の研修は12で述べた理由等により有意義なものであり大変満足している。一つ感じた点は原子力発電所の技術に関わる講義やディスカッションが少ないと感じた。深い技術知識が必要とは思われないが、事故時の原子力発電所の操作やそれに必要な設備に関する知識があれば福島事象の理解や考察が格段に深まると思う。	特にスウェーデンでいろんな施設を見学できたことが大きい。また、オックスフォードという最高の環境の中で学べたことがとてもいい経験となり、モチベーションも上がった。キャンパスの建物はもちろんのこと、庭や芝生もとてもきれいで毎日とても快適だった。悔やまれる点としては参加者の名前を最後まで完全に覚えられなかったことである(特に発言)。ここで培った交友関係と積極性、世界的情勢に関する知識を糧として、もっと高いレベルを目指していきたいと更に強く思うようになった。このようなチャンスはいつかだけのことだから心から感謝している。	日本人で「それなりに英語ができる」程度でははつきり言うて非常に苦しい。私程度の英語力では最初の数日は全く太刀打ちできず、本当につらかった。具体的には、自分の意思と発言のギャップが大きくストレスが溜まる/ネイティブの英語に耳が慣れていないし、どう頑張っても聞き取れない音程・滑舌がある/それでも海外参加者との交流を積極的に行こうと無理すぎて肉体的・精神的に参った。等々。私の場合、「英語力はすぐに成長しないので、張り切りすぎると6週間はとて持たない」と思い、気持ちを切り替えて適度に力を抜くよう心がけた。今後の参加者には「どんなことでも英語で考えられる・即座に答えられるくらい英語が必要」と「あまり気負わずリラックスして臨むことが寛容」ということを伝えたい。また、このような多様な文化が混在する場では、「知識」よりも「個性」が重視されることがわかった。つまり、「その人はどういう人か」の方が問われる(もっと言えば話をするに足るほど面白い)。今後研修に参加される方には、その点を中心して準備されるよう勧めたい。	コミュニケーションとして英語力はもちろん必要だが、それ以上に自分の考えと、それを伝えようという意識が重要だと思う。伝えることがなければ、何のフィードバックも得られない。その反面、何かアクションすれば、色々なことが得られる環境だったように思う。	大変良い経験になった。